

共同宣言：第12回アジア太平洋都市サミット 福岡宣言

「第12回アジア太平洋都市サミット」が、2018年8月1日、2日の2日間にわたり、16か国32都市の代表がここ福岡市に集い、国際連合人間居住計画（国連ハビタット）福岡本部と共同で開催された。

アジア太平洋都市サミットは、1994年に福岡市が提唱し創設され、これまで11回のサミット、10回の実務者会議の開催実績を重ね、各都市の課題やその解決に向けた取組みの共有や相互協力のみならず、経済発展のための交流などを行い、多くの成果を挙げてきた。そして、アジア太平洋都市は、そのネットワークを活用しながら、国際的な都市間における相互理解と友好・協力により、調和のとれた都市の持続可能な相互発展を目指してきた。

現在、世界の総人口76億人のうち、約55%が都市に居住しているが、その割合は今世紀半ばまでに約70%に達するとされている。

特に、アジア太平洋地域では過去に例のない規模と速度で都市化が進行している。

都市環境の管理、適切な交通の促進、水の供給など様々な都市問題の解決をはじめ、女性・保健・教育・防災など、市民生活に最も密着した施策を担う「都市」は、国際連合総会で2015年に採択されたSDGsの17の全ての目標の推進と達成に不可欠な存在であり、その役割と責任は大きい。

また、高齢化に対応し、急速な都市化に伴って増大する環境や交通への負荷に対処し、気候変動により増大する災害リスクから市民を守るため、都市は民間セクターと連携し、ICT、IoT、AIなどの革新的技術をどのように活用し解決していくのか、都市政策にも、新たな挑戦が求められている。

今回のアジア太平洋都市サミットでは、SDGsを踏まえ、「住み続けられるまちづくり」をテーマの中心に、国際連合や国際機関、先進的な技術を有する民間企業等も参加し、優良事例の共有や議論を行うとともに、参加都市の友好をさらに深め、新たに国際機関等とのネットワークを構築し、先進的な技術の活用や持続的な開発を促進する取組みに関する知見を得た。

この2日間にわたるプログラムを通じて、都市環境における都市レベルの様々な行動が、気候変動や災害・危機管理など地球規模の諸問題につながるため、都市レベルでの解決が持続可能な地球、より良いアジア太平洋地域の未来の実現に向けた希望であり、また、各都市の首長がリーダーシップを発揮することが、益々増大し高度化する都市問題の解決に

必要不可欠であって、その使命と責任は都市のみならず持続可能な地球の未来に対しても負うものでなければならないことを認識した。

会議の閉会にあたり、アジア太平洋都市のさらなる発展と、国際的な都市間ネットワークを活用した都市問題の解決が、地球規模の課題解決にも寄与していくよう、下記の事項を福岡宣言として採択する。

1 アジア太平洋都市は、これからも、互いに尊重しながら、相互扶助、互恵の精神をもって、都市の健全な発展と都市政策の前進に向け、交流と協力を推進し、その基盤となる都市間ネットワークの充実を図っていく。

2 アジア太平洋都市は、都市間ネットワークや国際的な会議の場などを通じて、国際連合や国際機関の協力と連携を得ながら、他都市の様々な取組みや世界の動向を真摯に学び、その蓄積された知識や経験を活用するとともに、最先端の技術革新を積極的に取り入れながら、都市の持続可能な開発と社会の進歩に向けて、具体的に行動していく。

3 アジア太平洋都市は、SDGsを踏まえ、相互に協力しながら、都市の経済発展と、環境の保全や保護、貧困や格差の是正、教育や医療、社会保障の充実、社会的包摂を実現することで、人と環境と都市活力の調和がとれた都市づくりを行い、地球規模の課題解決に寄与し、未来の世代が夢や希望を抱くことのできる世界を築いていく。

4 アジア太平洋都市サミットは、SDGsの推進と実現に向けたアジア太平洋都市の取組みと国際的な都市間連携の意義と実質的成果を、世界中へ積極的に発信していく。

5 2020年に、日本国 福岡市で第13回アジア太平洋都市サミット市長会議を開催する。

2018年8月2日

日本国・福岡市にて